

地域のかお シリーズ73

那珂小の校風は風土にあり
宮崎市立那珂小学校
校長 新坂 靖典

那珂小学校は、明治7年に東上那珂と西上那珂に創立された2つの小学校が、明治36年に合併されて那珂小学校となり、今年で146年目を迎えます。「家には家風があり、学校には校風がある。」という言葉があるように、那珂小学校にも長年に渡り築き上げられてきたすばらしい校風を感じます。校風については、次のような話を思い出します。

{校風とは、学校の「風土」(雰囲気)である。「風土」とは、文字があらわすように「風」と「土」が和して作り出すものである。「風」とは、「風の人」(教育公務員)であり、「土」とは「土の人」(子ども・保護者・地域の人)と考える。「風の人」は、どこからともなくその土地にやってきて、その土地の人とともに混じりながらクリエイティブな仕事をし、その土地を去っていく人であり、「土の人」は、その土地で仕事をし、いずれその土地で土となっていく人である。}

そう考えると、那珂小学校の校風も地域(佐土原・那珂)の人たちと教育公務員が長年に渡り作り上げてきたものだと実感できると同時に、こうして、本校に赴任させていただいたことに、大きな責任を感じる次第です。



那珂小学校には大きな「けやき」の木があり、学校のシンボルとなっています。目指す児童像にも、子どもたちが覚えやすいように「けやき」が使っています。「け(健康で)や(やさしく)き(きちんと学習できる)」児童の育成を目指しています。今年度から、それらの教育活動を通して、これからのAI時代にも対応できる「意欲的に活動できる児童の育成」を目指そうと取り組み始めたところです。



また、今年は、新型コロナウイルスの影響を受け、臨時休校や自粛が相次ぎ、家庭教育の在り方にもひと工夫を投げかけることにしました。これまで家庭教育学級で行っていた「計算トランプ」を臨時休校や長期休業中に「児童のゲーム依存」と「親子・家族(高齢者)とのコミュニケーション」を見直す目的で、活用を推奨しています。臨時休校・長期休業明けには家庭教育学級で「家族対抗の計算トランプ大会」を計画し、休業中の家庭教育の充実に役立てようと考えています。この取組は、今回の新型コロナウイルスに関する自粛の際に関心が高まり、UMK・宮日新聞、地域のまちづくりでも取り上げられました。家庭の隙間時間を利用して、各家庭において様々な場面で有効に活用してもらうことを期待しています。学校と家庭が一緒に取り組むことによって、児童への教育効果が高まることや他の活動へも良い影響を与えてくれると考えています



最後に、那珂小学校の伝統でもある「あいさつ」と「感謝を伝える」雰囲気を継承していきたいと考えています。朝のあいさつや、止まってくれた車への感謝を伝えることを実践していく過程で、各自がその意義に気が付いていくことを期待しています。地域の皆さんも温かく見守っていただき、励ましていただけたら幸いです。

